「令和６年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立　日吉台小学校】

令和６年４月１８日（木）に、小学校第６学年全児童、中学校第３学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

１　児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

（１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm

２　本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算　数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

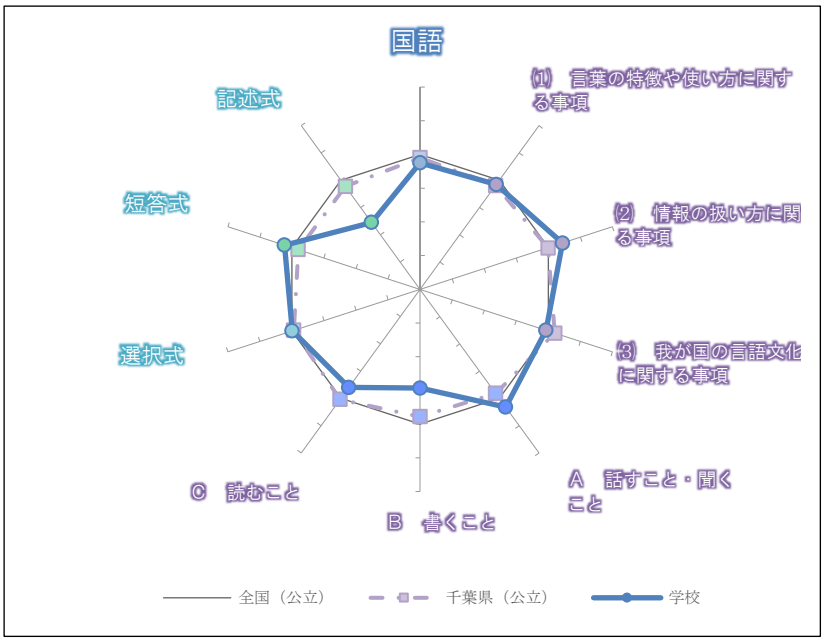
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように話し方を工夫することについての問題では、正答率が高い傾向が見られました。「話す・聞く」力は身に付いていると考えられます。

・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し、使う力も身に付いています。

・漢字を書くことについては、全国や県の平均点と同様の正答率でした。送り仮名のない問題の正答率は、平均を上回っていました。漢字を文の中で正しく使うことは、おおむねできていると考えられます。

・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書くことについては、課題が見られます。

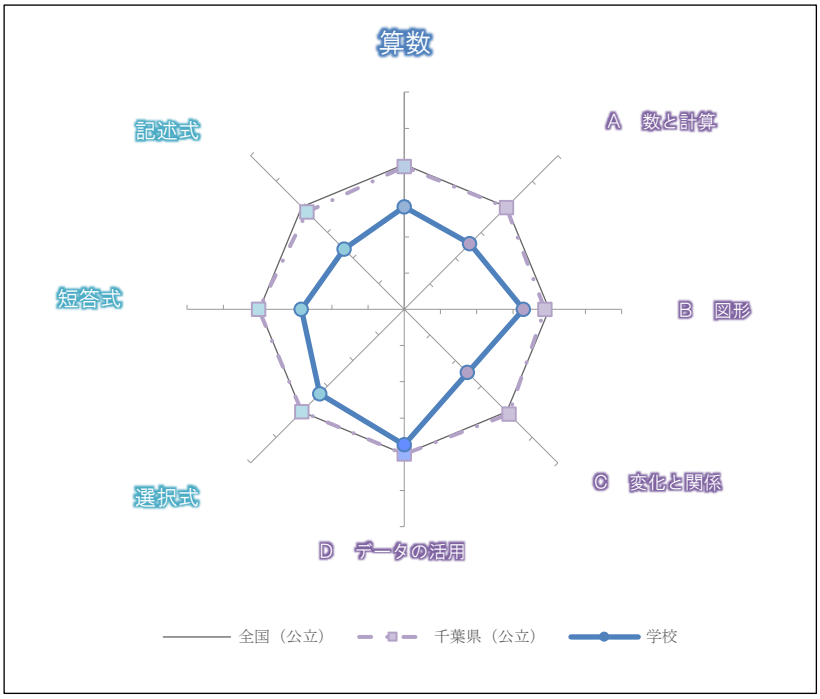
【改善方策等】

○ これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、学習した漢字を短作文等で積極的に活用する場面を設けて、漢字を書き取る力が一層定着するよう努めてまいります。

○「話す・聞く」力は定着していることがわかりました。今後も、自分の考えが伝わるように話したり、内容をしっかり聞き取ったりすることができるよう、話し合い活動の充実を図ります。

○ 目的や意図に応じて、事実と感想・意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように文章の書き表し方を工夫する指導をしてまいります。また、物語を読んで、心に残ったところについて、理由を挙げながら文章に書き表すことができるよう指導してまいります。教師による添削も行い、きめ細やかな指導に努めてまいります。

算　数



【特徴と現状】

・折れ線グラフから必要な情報を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題や、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題は平均を上回っていました。
・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係については、おおむね理解できていると考えられます。
・計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題の正答率が低く、課題が見られます。
・除数が小数である場合の除法の計算、また、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題の正答率が低い傾向が見られました。
・速さの意味や、円グラフから割合を読み取ることに課題がみられます。

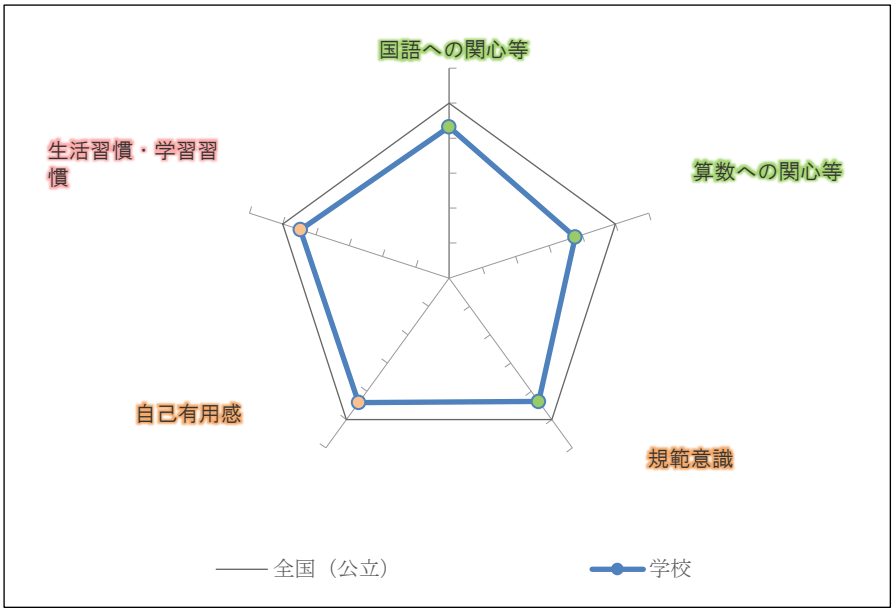
【改善方策等】

○ これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習等を通して，基礎・基本的な計算力が身に付くように努めてまいります。

○ 計算のきまりについては、理解をさらに深めていく必要があります。計算の順序の確認や、加法や乗法の計算法則のしくみが理解できるよう、ドリル学習等の活動を充実させてまいります。また、解き方を友達に説明する活動を多く取り入れたり、多くの解き方に触れさせたりして、同じ問題でも様々な解決方法があることを理解できるよう努めてまいります。

○ 速さや割合についての理解を深めることができるよう、図に表して考えるなど、ＩＣＴ機器を活用して視覚的な支援を行い、よりわかりやすい授業展開ができるよう、指導の改善・工夫をしてまいります。

（３）児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

○ 「学校の学習以外にどのくらいの時間、勉強をしますか」で２時間以上と回答した児童の割合が全国平均よりも１０％高くなっていました。

○ 「将来の夢や目標をもっていますか」で肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均よりも１０％高くなっていました。

○ 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」で「全くできていない」と解答した児童の割合が、全国平均よりも高くなっていました。

○ ＳＮＳや動画視聴、ゲームなどをしている時間が４時間以上という児童の割合が、全国平均より高くなっている傾向が見られました。

○「自分にはよいところがあると思いますか」で肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均よりも低い傾向にありました。よいところを認め、励まし、自分肯定感を高められる場面を充実させていく必要があります。

○「算数の学習が好きですか」で肯定的な回答をした児童は全国平均を上回っていましたが、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」「算数の問題がわからなかったとき、あきらめずにいろいろな方法で考えますか」では、肯定的な回答をした児童が全国平均を１５％下回っていました。あきらめずに様々な方法で考えることができるような指導を工夫してまいります。

３　まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを様々な方法を用いて表す活動を一層充実させ、児童の実態に応じて発展的な問題を扱ったり、ＩＣＴ機器を活用したりして、さらなる学力向上を目指すとともに、自他を大切にし、自己の有用性を感じられる授業改善を継続してまいります。

家庭での規則正しい生活習慣が身に付いている児童は、学力も高い傾向にあります。今後も、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣について、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。